

病院厚生会事業の在り方と重要性

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 事務局総務担当)

廣瀬 梨奈 川崎 尚美 中島 美弥子

要 旨

病院職員が職種の垣根を越えて多職種との交流を図り、福利厚生の一環として事業を行っているのが病院厚生会である。コロナ禍で20年以上もの間行われていた事業が中止となった今、いかに福利厚生の充実を図るかが問われ、事業の継続のために病院厚生会の評議員と検討した。その結果、年末贈答品と相互親睦補助事業は例年通り行う方針とした。事業の実施が減少した分、年末贈答品に関しては例年より増額し、福利厚生の還元率の増加を図った。病院厚生会事業が病院職員の福利厚生と大きく寄与しているものであることを実感することができた。

(京市病紀 2021 ; 41: 77-78)

Key words : 病院厚生会評議員, 年末贈答品, 相互親睦補助事業

はじめに

病院厚生会は、主にアルバイト職員以外の病院職員(例外を除く)で構成されており、2020年12月現在の総会員数は1087人である。各所属長は職場代表、組合は組合代表を決定し、職域代表(各所属長)、組合代表、職場代表として合計22名の評議員が選出される。2020年度は雇用体制の変更によって病院厚生会員の対象者も変更となり、病院厚生会員は約200人増加した。病院厚生会の事業(以下「事業」)では、病院職員の福利厚生の一環としてビアパーティー、ボウリング大会、文化祭などを行っており、それぞれの職種の垣根を越えて多職種との交流を図っている。

しかし2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を再検討する必要がある。これを機に改めて事業の在り方を考え、病院職員にとっての重要性を掘り下げていく。

2020年度の実績について

例年であれば全事業を行い、多職種の交流を図り、親睦を深めたいところだが、感染拡大防止のため、2020年度は会食や三密となる事業は中止とし、その他の事業でいかに福利厚生の充実していくかを考え、年度初めの総会で5つの案(①相互親睦補助、年末贈答品(3,000円相当)、②年末贈答品(4,000円相当)、文化祭、③年末贈答品(4,000円相当)のみ、④相互親睦補助のみ、⑤事業無

し)を示した。

5つの案については、総会前に評議員に周知し、各所属で検討いただいた結果を総会で最終決定することとした。

総会で検討した結果、新型コロナウイルス感染症の感染を防止するため、ビアパーティー、ボウリング大会、文化祭は実施しないと、年末贈答品と相互親睦補助事業は例年通り行う方針とした。一部の事業を中止する代わりに年末贈答品に関しては例年より増額し、事業の実施が減少した分、福利厚生の還元率の増加を図った。

また、病院厚生会員が増加したため、「病院厚生会事業とは何か」を改めて職員に院内情報webの掲示板にて周知し、事業を広く知ってもらい、活用していただけるよう周知方法を工夫することで、福利厚生の充実を保てるようにした。

考 察

事業は福利厚生の一環であり、コロナ禍により全事業中止という決断はできない。事業を制限せざるを得ない中で、いかに病院職員の福利厚生の充実を図るかが問われた。多職種の交流を図るため、また日々の業務の労いのために、20年以上もの間さまざまな事業を行ってきたが、今回のコロナ禍でその事業の重要性が露わになり、改めて事業の在り方を深く追求することができた。例年よりもより多くの時間をかけて事業を検討、評議員とも協議し、事業を見直すよい機会となった。

Abstract

Importance of Hospital Welfare Activities

Rina Hirose, Naomi Kawasaki and Miyako Nakajima

Secretariat General Affairs, Kyoto City Hospital

The hospital welfare association supports the welfare activities of the hospital workers to interact with each other in multidisciplinary fields. The welfare activities have continued for over 20 years, but had to be cancelled due to Covid-19. We discussed how to continue the operation with the hospital board. As a result, the traditional year-end gifts and support of interaction were continued as usual. Although the activities decreased, the year-end gifts increased, and the return rate was not changed greatly. We felt that the hospital welfare activities contributed to the welfare of the hospital workers.

(J Kyoto City Hosp 2021; 41:77-78)

Key words: Hospital ward, Year-end gifts, Mutual fellowship assistance